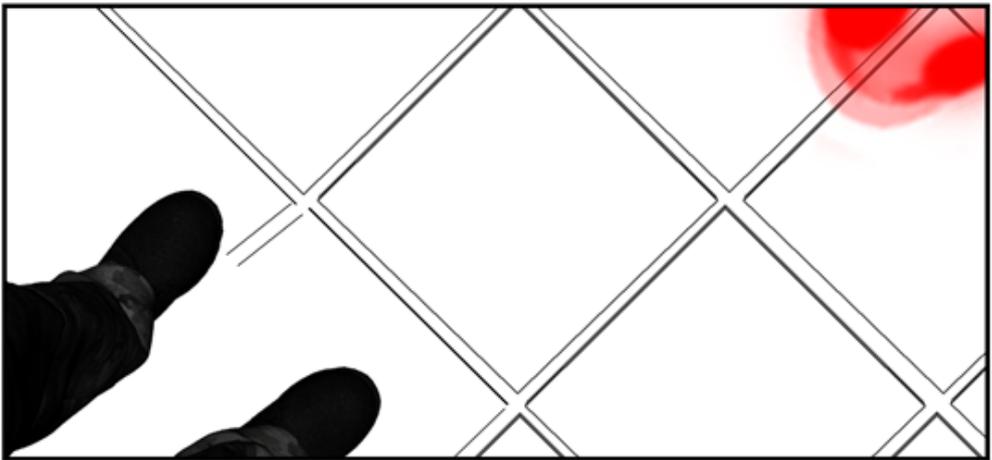
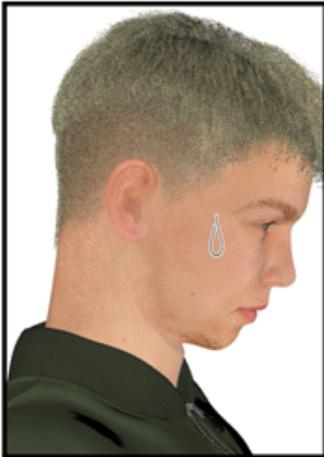


RazorEdge

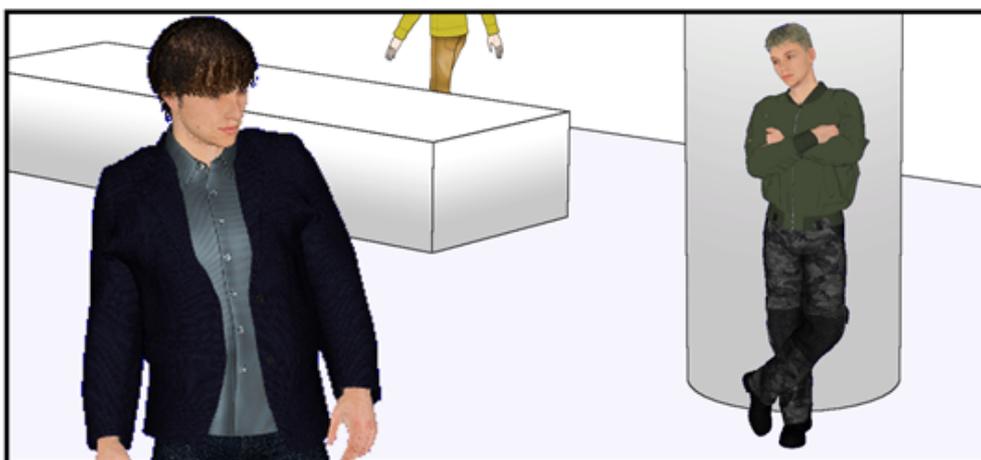
克典
ritardando



早い終電間際の交通ターミナル



リタルダンド
克典 ritardando



ブー七の雅志と秀貴は
プッシュヤーだった





売れ残りと売上金を渡す



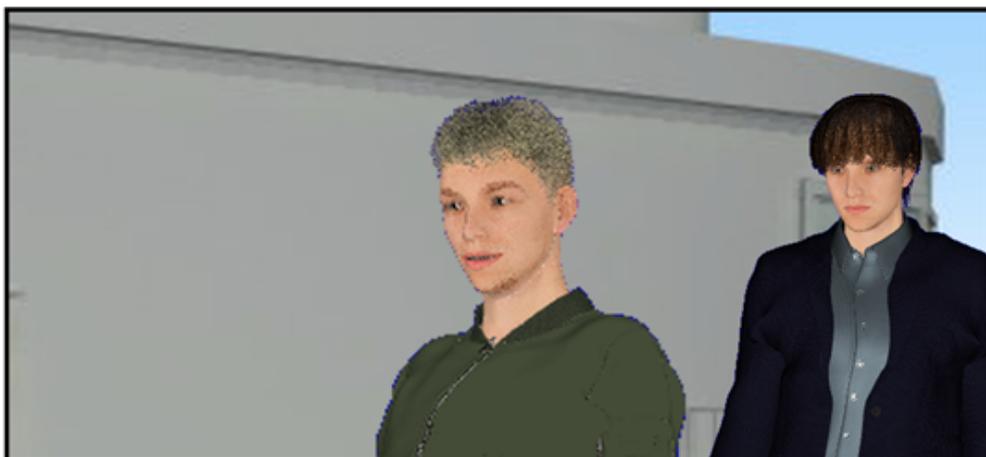
004.png



売れ残りと売上金を渡す



0 0 4 .png



さつこは秀貴のカノジョ

三人揃って中卒で一七

雨でも降らない限り
おれと秀貴(時々)は
ここで暇を潰してねぐらへ戻った

敷きっぱなしの布団で
眠ったふりをして
パチンコ
夜更けに
町へ純トロを売りにゆく

退屈で
息が詰まりそうだった



その日もおれは
場末のパチンコ屋で
律儀に負けていた



一八歳未満だと
ろくすっぽ
バイトの口もない

フラフラしていたら
地元の先輩から
中路さんたちに紹介された

純ト口を捌いていて
摘発されそうになって
ギリギリ逃げ切ったこともある

それでも他に手段がなかった

秀貴とさつこのことは
羨ましかった
おれにはカノジョがいなかった

さつこは
キャバクラで
働いているらしかった
『店では「アケミ」だろうか？』
なんて弄って
キレられたな いつか

一八になれば
バイトの口も増え
何とかなるだろう
なんて
ぼんやりと考えている



失礼します





珍しく
さつこが自らの希望を述べた
「海が観たい」と

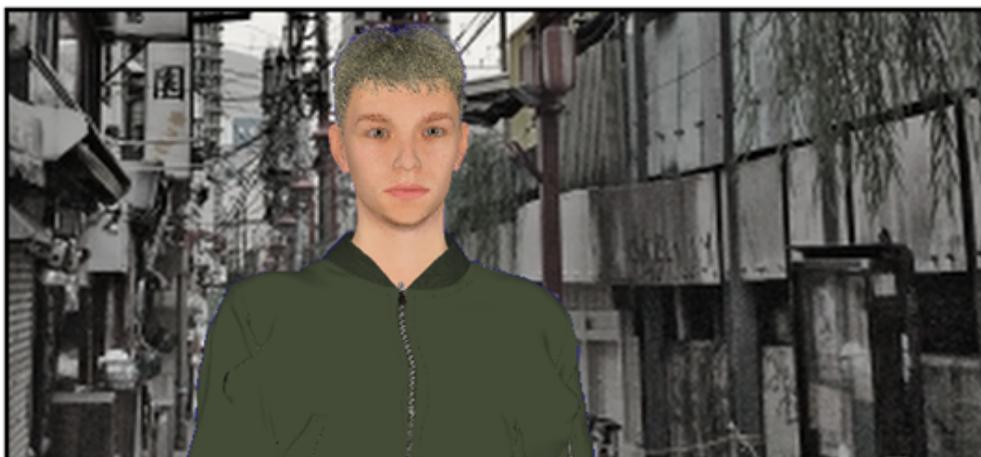
おれたちは
季節外れの海を訪れた

砂に描いた綾が
波に呑まれると
さつこはすこし
淋しそうな表情をした

三人で
砂浜でじやれたり
長時間移動の電車で
駅弁を食べたり

「またこような？」
と提案すると
秀貴もさつこも賛成した







チャンネルはそのまま

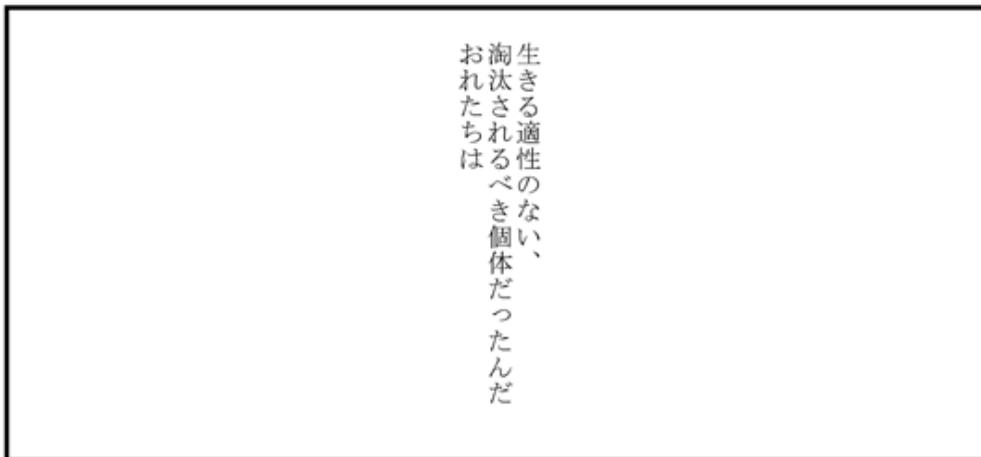
コイツってさ
ある程度汚いところでしか
生きていけないんだって



チャンネルはそのまま

何かあったら
組はお前に
ケツ持ってくるからよ

ヤマメとかアユとかと
同じ川には棲めないんだって



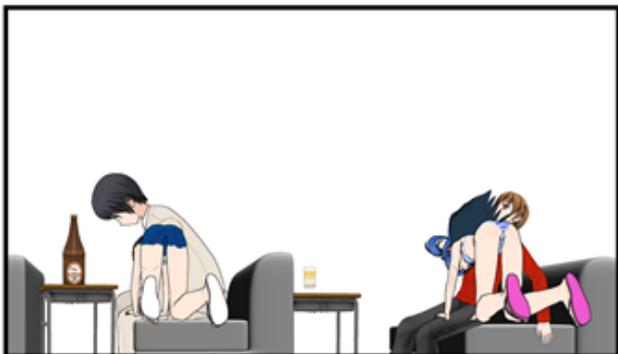
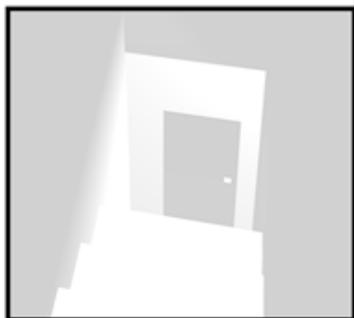
久々に大勝して
あぶく銭を持っていた

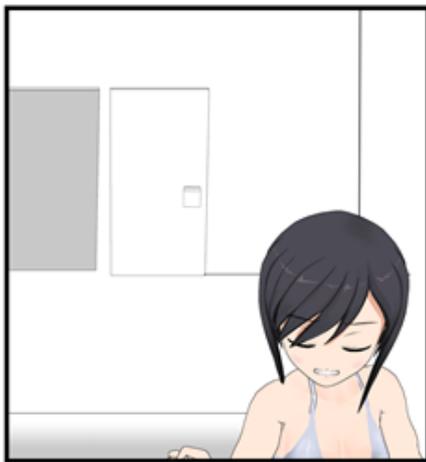


はじめての店だった



ご新規一名様
ご来店です



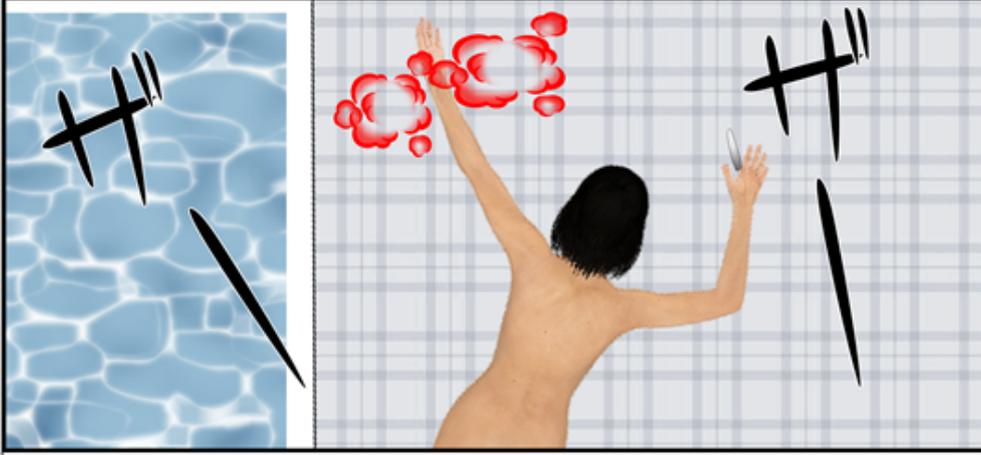


帰宅すると
施錠されていた

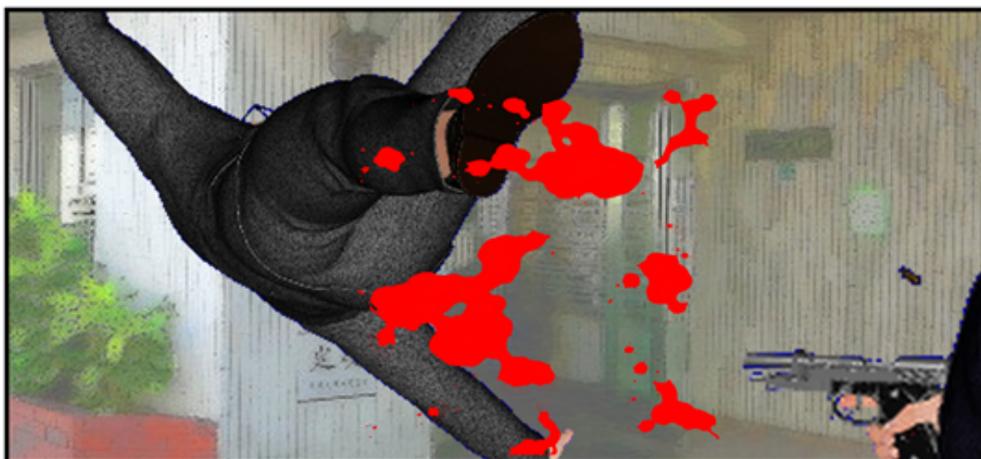
水音がきこえた

水音はいつまでも止まなかった

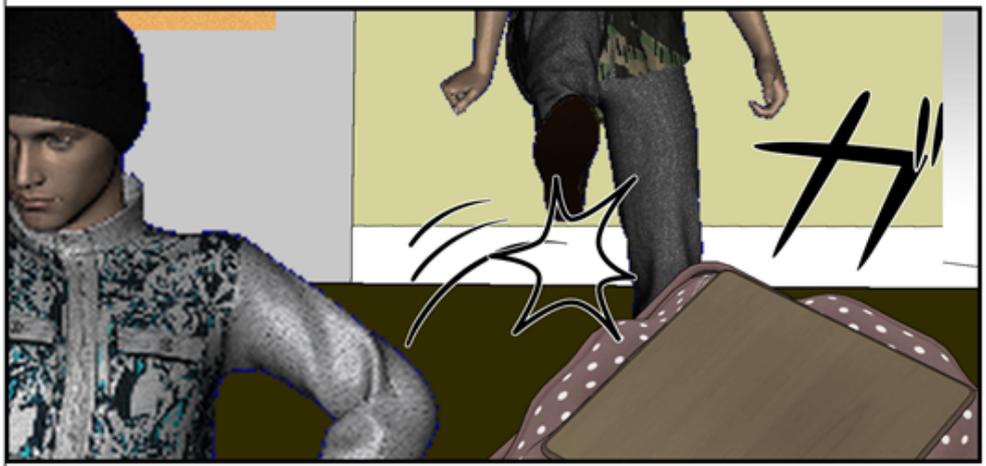
浴室の扉を開けた



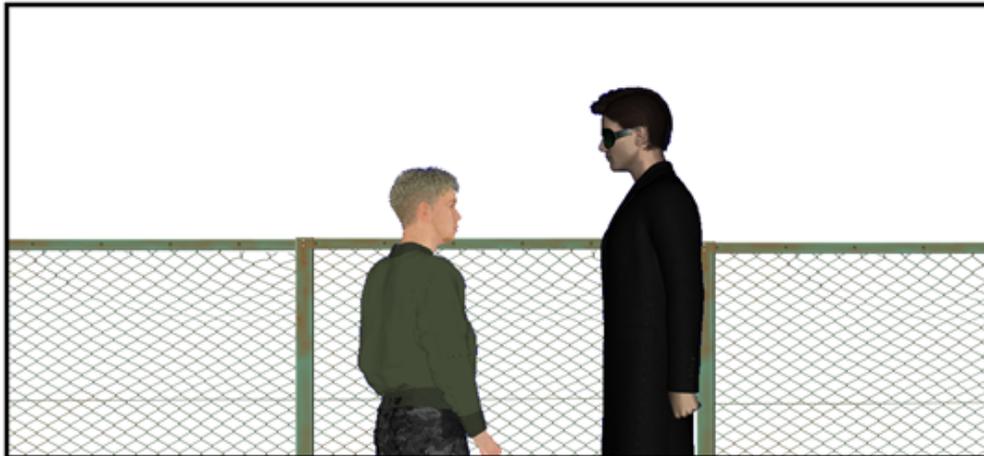




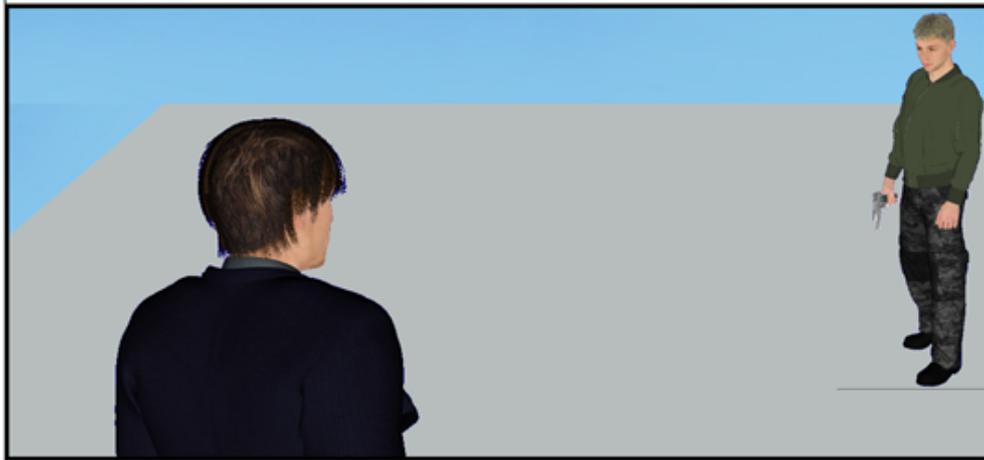
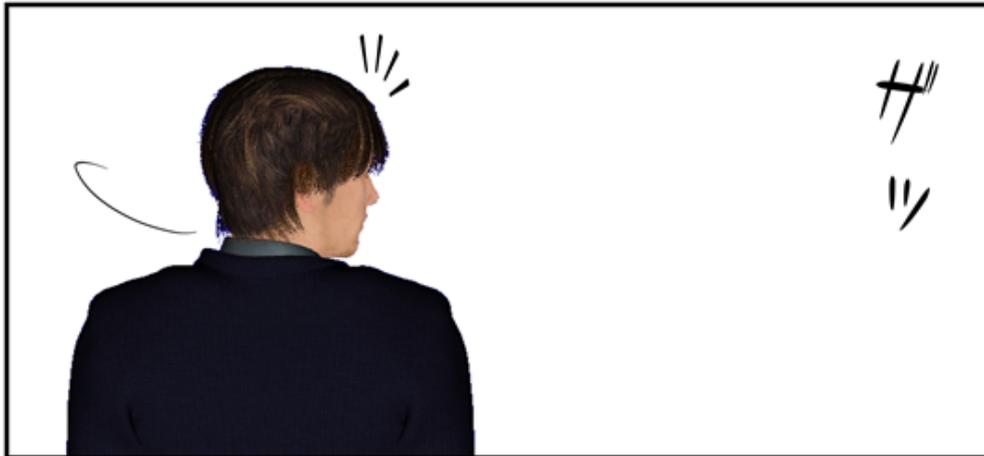
大家
さつさと開けるよ
余命縮めんどぞ？



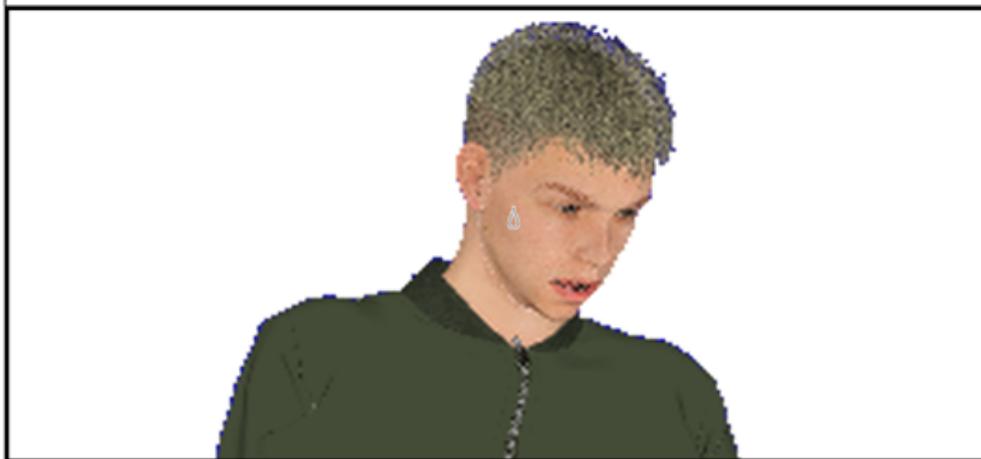










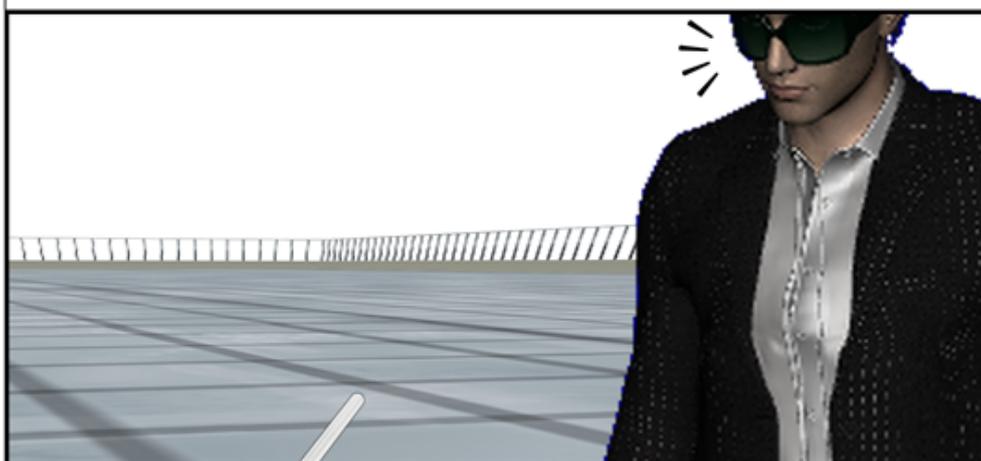
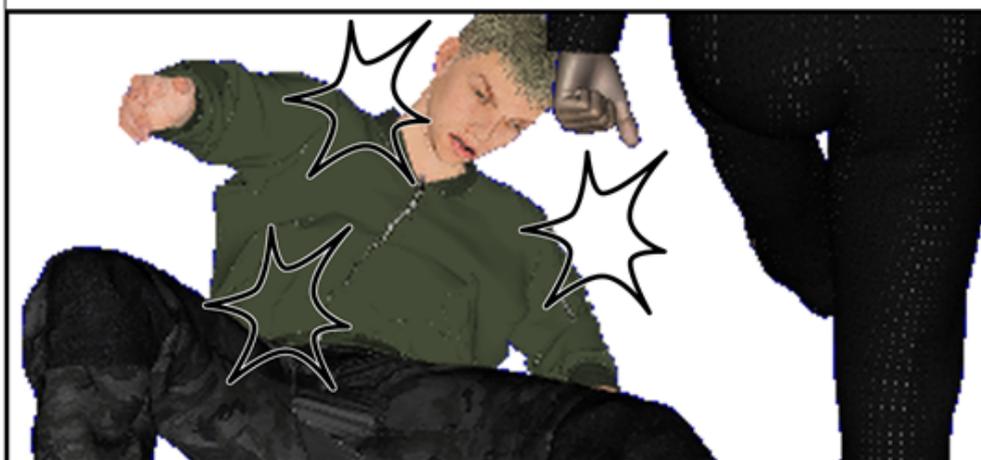


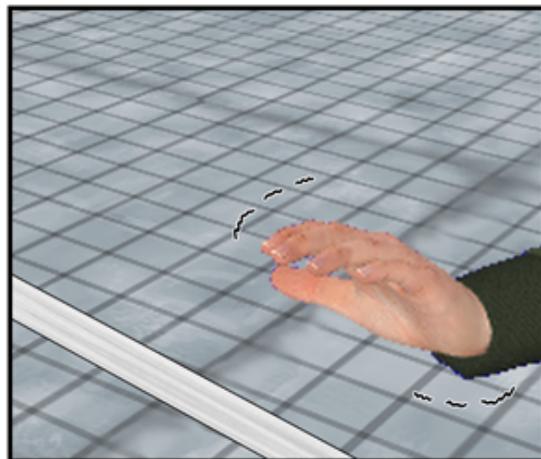
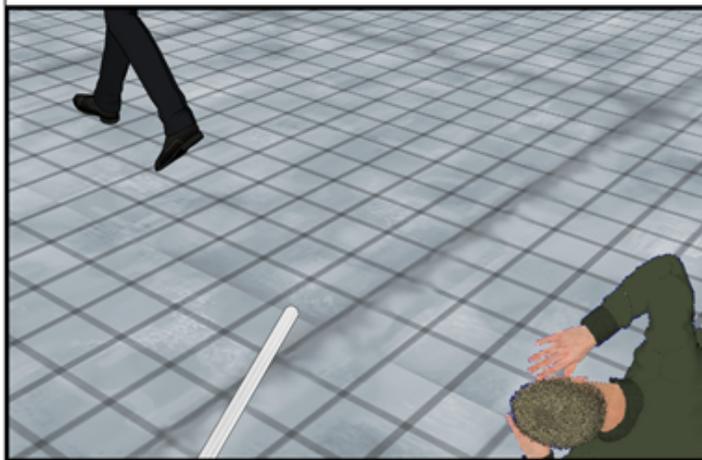
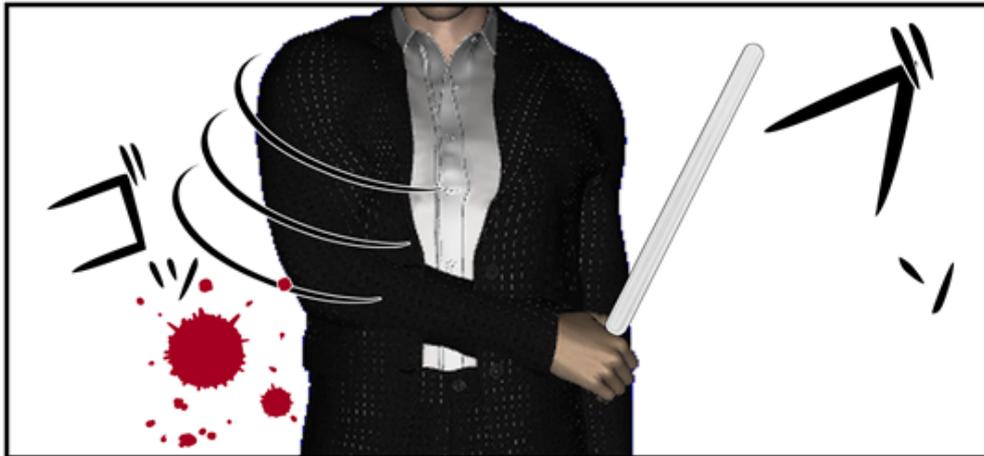


冬柴は臆さず
間合いを詰めた

冬柴の手が伸び
銃身を掴んだ

勞せずして
冬柴は雅志の手から
拳銃をもぎとった







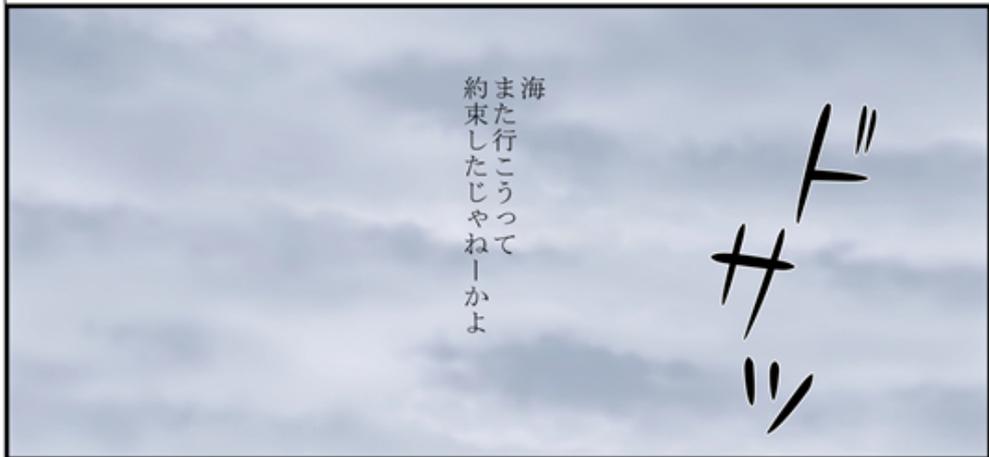




どうして
かあちゃんも
秀貴もさつこも
おれを置いてけぼりにすんだ

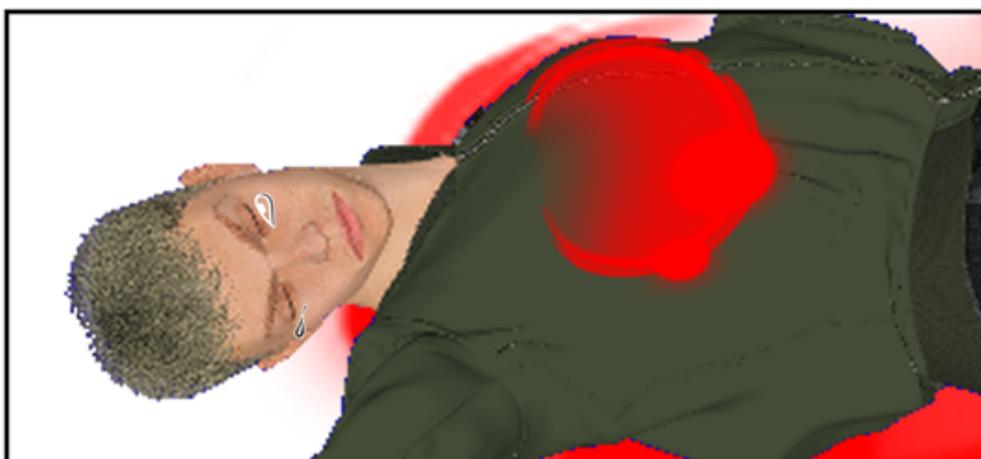


ちくしょう



海
また行こうって
約束したじゃねーかよ

ドガッ



倒れた雅志の傍らには
鉄パイプと携帯電話が落ちていた
携帯電話のなかで
三人が歓喜していた

ritardando

著 克典

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
